

2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社ニチリョク
 コード番号 7578 URL <http://www.nichiryoku.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 寺村 久義
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営統括本部長 (氏名) 五嶋 美樹

TEL 03-3396-0033

四半期報告書提出予定日 2019年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	1,605	3.9	99	253.7	67	—	36	—
2019年3月期第2四半期	1,545	△11.5	28	△11.2	△9	—	△8	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	29.61	—
2019年3月期第2四半期	△6.90	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	9,686	3,266	33.7	2,613.94
2019年3月期	9,710	3,242	33.4	2,594.95

(参考)自己資本 2020年3月期第2四半期 3,266百万円 2019年3月期 3,242百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	4.2	280	60.6	190	81.3	180	258.3	144.06

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	1,374,101 株	2019年3月期	1,374,101 株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	124,580 株	2019年3月期	124,580 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	1,249,521 株	2019年3月期2Q	1,249,521 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦や英国の欧州連合離脱問題等の懸念拡大を受けた貿易収支、全国企業短期経済観測調査における業況判断指数、消費者態度指数の悪化等が重なり、先行き不透明な要因を包含する形で終わりました。

当社が属するメモリアル産業は、高齢者が増加傾向にあるにもかかわらず、霊園事業においては、埋葬の選択肢の多様化に伴い、比較的高価格となる墓地墓石の購入層は年々減少する傾向にあります。

一方、首都圏に永住される消費者が所有する故郷のお墓を引っ越しする需要は、緩やかに増加しております。

この流れに対応すべく当社は、様々なお墓の形態を兼ね備えた霊園を開発すると共に、供養の全てを網羅し、価格においてもご満足いただける堂内陵墓事業への拡充を図っております。

葬祭事業においては、超高齢化による葬儀の小規模、地味化傾向が一層顕著となる中、インターネット媒体を中心とした業者間の価格競争により、施行単価が下落するという厳しい環境下にあるものの、生花祭壇葬「愛彩花(あいさいか)」と共に、家族葬を専門としたラステル葬は消費者から安定した支持を受けており、施行件数は堅調に推移しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高16億5百万円(前年同四半期比3.9%増)、営業利益9千9百万円(前年同四半期比253.7%増)、経常利益6千7百万円(前年同四半期経常損失9百万円)、四半期純利益3千6百万円(前年同四半期純損失8百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①霊園事業

屋外墓地につきましては、高齢化により成約件数は順調に増加しているものの、埋葬に対する価値観の変化や選択肢の多様化に伴い、比較的高価格となる墓地墓石の購入層は年々減少の一途にあります。

それに対し、樹木墓や共有墓等の需要は急激に増加し、施工単価の下落がより顕著化している状況を踏まえ、募集販売を受託している既存霊園の改造等、販売戦略の見直しを継続的に行ってまいります。

売上高は、6億2千8百万円(前年同四半期比0.2%減)となりました。

②堂内陵墓事業

第六号「赤坂一ツ木陵苑(東京都港区)」並びに第七号「大須陵苑(名古屋市中区)」は、消費者の価値観を超える重厚な施設と立地が好評を得ております。

しかしながら、近年、特に東京都内において、主に団塊の世代をターゲットとした納骨堂(自動搬送式を含む)の建設ラッシュがあり、現在は供給過多の環境下にあります。

このような状況を踏まえ、徹底した広告戦略の見直しを行い、僅かながら集客力回復の兆しが見えて参りました。

売上高は、1億6千1百万円(前年同四半期比16.2%増)となりました。

③葬祭事業

死亡者数が年々増加傾向にある中、当社は終活セミナーや様々なイベントを開催し、潜在顧客を受注に繋げる取り組みを積極的に行っております。

会員制の生花祭壇葬「愛彩花」並びに家族葬、直葬施設を併設した独自のブランド「ラステル(ラストホテル)」は、「小規模でありながらも心のこもった葬儀」を望む現代の消費者から好評を得ております。

また、マスメディアにも多数取り上げられ認知度は確実に高まっており、施行件数は堅調に推移しております。

売上高は、8億1千5百万円(前年同四半期比5.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ、2億円増加し、26億6千9百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金1億8千3百万円の増加等によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末に比べ、2億2千4百万円減少し、70億1千6百万円となりました。その主な要因は、土地4億6千1百万円の増加、霊園開発協力金4億7千万円及び保険積立金2億8千8百万円の減少等によるものであります。

この結果、総資産は、96億8千6百万円となり、前事業年度末に比べ2千3百万円減少いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ、1億1千2百万円減少し、26億1百万円となりました。その主な要因は、短期借入金7千5百万円の増加、1年内償還予定の社債9千5百万円及び1年内返済予定の長期借入金6千4百万円の減少等によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末に比べ、6千4百万円増加し、38億1千8百万円となりました。その主な要因は、長期借入金2億1千8百万円の増加、社債1億1千4百万円の減少等によるものであります。

この結果、負債合計は、64億2千万円となり、前事業年度末に比べ4千7百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ、2千3百万円増加し、32億6千6百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金3千6百万円の増加等によるものであります。

この結果、自己資本比率は33.7%（前事業年度末は33.4%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ3億3千8百万円増加し、12億2千8百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、5千9百万円（前年同四半期比36.8%増）となりました。これは主に、営業収支による獲得1億2千7百万円、利息の支払4千8百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、2億6千4百万円（前年同四半期は2億8千4百万円の使用）となりました。これは主に、保険積立金の解約による収入3億7百万円及び定期預金の純減による収入1億5千4百万円、差入保証金の純増による支出1億8千3百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、1千4百万円（前年同四半期比95.1%減）となりました。これは主に、長期借入金の純増による収入1億5千万円及び短期借入金の純増による収入7千5百万円、社債の償還による支出2億1千万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現時点、2019年5月10日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,739,826	1,923,628
完成工事未収入金	40,550	33,701
売掛金	204,957	214,171
永代使用権	192,300	188,993
未成工事支出金	178,196	177,737
原材料及び貯蔵品	65,861	73,776
その他	47,731	57,887
貸倒引当金	△14	△3
流動資産合計	2,469,411	2,669,892
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	764,165	730,918
土地	1,535,523	1,996,523
その他(純額)	27,505	23,677
有形固定資産合計	2,327,194	2,751,120
無形固定資産	199,487	166,911
投資その他の資産		
長期貸付金	81,550	78,410
差入保証金	2,702,090	2,869,981
長期未収入金	376,096	368,895
霊園開発協力金	470,372	—
その他	1,114,804	809,571
貸倒引当金	△30,507	△28,235
投資その他の資産合計	4,714,406	4,098,623
固定資産合計	7,241,089	7,016,655
資産合計	9,710,500	9,686,548
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,183	83,139
短期借入金	12,668	87,700
1年内返済予定の長期借入金	1,855,922	1,790,936
1年内償還予定の社債	335,100	239,800
未払法人税等	37,762	21,065
賞与引当金	36,530	31,700
その他	358,722	347,405
流動負債合計	2,713,888	2,601,746
固定負債		
社債	319,750	205,000
長期借入金	2,843,407	3,061,812
退職給付引当金	330,482	327,286
役員退職慰労引当金	182,725	145,024
その他	77,805	79,503
固定負債合計	3,754,170	3,818,626
負債合計	6,468,058	6,420,372

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,306,842	1,306,842
資本剰余金	958,082	958,082
利益剰余金	1,162,832	1,199,832
自己株式	△228,293	△228,293
株主資本合計	3,199,463	3,236,463
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55,440	43,560
繰延ヘッジ損益	△12,461	△13,847
評価・換算差額等合計	42,978	29,712
純資産合計	3,242,441	3,266,175
負債純資産合計	9,710,500	9,686,548

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,545,971	1,605,966
売上原価	499,075	509,551
売上総利益	1,046,895	1,096,414
販売費及び一般管理費	1,018,867	997,280
営業利益	28,027	99,133
営業外収益		
受取利息	1,114	1,011
受取配当金	5,943	7,023
その他	14,028	13,080
営業外収益合計	21,086	21,114
営業外費用		
支払利息	48,851	44,538
その他	9,285	8,476
営業外費用合計	58,137	53,015
経常利益又は経常損失(△)	△9,023	67,233
特別利益		
固定資産売却益	—	59
特別利益合計	—	59
特別損失		
固定資産売却損	746	—
固定資産除却損	734	—
霊園開発中止損	—	6,429
特別損失合計	1,480	6,429
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△10,504	60,863
法人税、住民税及び事業税	4,583	10,739
法人税等調整額	△6,461	13,124
法人税等合計	△1,877	23,863
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△8,626	36,999

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	1,552,769	1,595,971
原材料又は商品の仕入れによる支出	△441,535	△452,002
人件費の支出	△553,733	△579,897
その他の営業支出	△491,162	△436,769
小計	66,337	127,302
利息及び配当金の受取額	5,998	7,081
利息の支払額	△48,925	△48,808
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	19,879	△26,363
営業活動によるキャッシュ・フロー	43,289	59,211
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△88,019	△100,006
定期預金の払戻による収入	24,000	254,825
有形固定資産の取得による支出	△4,069	△1,788
有形固定資産の売却による収入	1,851	60
貸付金の回収による収入	3,558	3,139
霊園開発協力金の回収	165,529	7,682
差入保証金の差入による支出	△511,058	△308,103
差入保証金の回収による収入	145,412	124,398
保険積立金の解約による収入	8,660	307,752
その他	△30,585	△23,157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△284,719	264,802
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	35,000	175,000
短期借入金の返済による支出	△137,099	△99,968
長期借入れによる収入	1,590,499	1,217,549
長期借入金の返済による支出	△863,146	△1,066,581
社債の償還による支出	△325,574	△210,050
配当金の支払額	△295	△211
その他	△2,102	△1,132
財務活動によるキャッシュ・フロー	297,280	14,607
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	55,850	338,621
現金及び現金同等物の期首残高	1,314,148	890,093
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,369,998	1,228,714

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。